武　一　中

令和７年 11 月 21 日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R7－13 号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ」の感想

校　長　　中嶋　建一郎

11/17 朝礼の話の感想を 120 人が書いてくれました。ありがとうございました。考えを共有しましょう。

○勉強だけではなく楽器やスポーツをするうえでも、「魚を与えるのではなく、魚の捕り方を教えてもらう」ということが大切だと思いました。

●「魚をあげるのではなく、釣り方を教える」というのはちょっと聞いたことがあったけれど、勉強にも当てはまることだと思ってなかったので、勉強にもそういう考え方が使えるんだなと思いました。

○わたしは数学でわからない問題が出るとすぐ答えを見てしまいます。そして答えを見てわかった気になってテストに挑むと、全然解けなかったりします。校長先生の言っていた、魚（答え）をもらうのではなく、釣り方（問題の解き方）の例、わかりやすかったです。今後はマジでわからない問題がでたらとりあえず答えを赤ペンで丸写しするのではなく、先生や親、友達などに聞こうと思います！

●最近塾の先生や親、学校の先生の言うことが全て僕に当てはまる話で大人ってすごいなと思うことばかりです。例えば今日の魚の話だと、過程が大事で結果ばかりを見るのではないなど、私は答えさえあってればいいだろという考えなので、やはり過程が大事なのかとひしひしと感じました。

○魚を違うものに変えたら、いろんなことに変えられるとわかった。（考えられる）

●私はいつも、魚をとる方法ではなく、魚本体を求めてしまうことがやはり多くあるなと感じた。でも、そのときは楽ができたりしても、その後、もう一度やるとなったときに困るのは自分だし大変になるのも自分なのではないかと思った。今日の話を聞いて、物事は、結果も大切だけどそれと同じくらい過程も大切にしたいと思った。

○この話を聞いて、自分自身も誰かに釣り方を教えてもらって成長してきたことを思い出しました。これからは、自分も他の人に同じように力になれる存在でありたいと思います。

●いつもの生活の中でも、気づかず魚の取り方より取れた魚を欲していることがあると思う。むずかしいことでも、魚の取り方を学べる人になりたい。

○一中の先生はまさに「魚の釣り方」を丁寧に教えてくれているんだなと思った。私も「魚」を与えるのではなく導き方を教えられるようになりたい。

●自分も参考としてチャットGPTを使うことが多いので参考の域を超えないぐらいに使っていきたい。

○今、普及しているAIの使い方をただ、魚(答え)を求めるためだけに使用しないように気をつけようと思った。

●最近は生成AIを使った課題解決が問題視されている中で、今回の話はとても考えさせられるものでした。根本的な解決をしない限りは自分のためにも、ましてや他人のためにもならないと思います。なにか壁に当たったときにはまずは自分で課題整理をして解決するということを大切にしていきたいです。

○私は以前、発展途上国に日本が行った支援についての特集をテレビで見たことがある。そこでは、日本はその国の住民に支援金を送るだけでなく、水不足の地域の中では水の濾過・浄水をする力を、地盤が軟弱な地域では土木工事での土の強化を教えたとあった。やはり、支援金を送るのみでは、豊かさは有限だが、教育を施すことは、豊かさを末永く続かせる最良の選択肢だと思った。

●アフリカへの援助などへも通用する話だと思いましたが、一つ違うのは、「魚を与える」ことも必要だということです。応急処置として、幾分か必要ですが、着実に、社会が釣り方を教えていっています。実際に、最新式の井戸だけを設置して放置し、手入れができずに崩壊、ということが昔ありました。最近になって、手入れが簡単な井戸を設置し、手入れまで教える、ということが考えられるようになってきました。そういうことって必要かなーって思いました。

○今日の話を聞いて、たしかに、答えを聞いただけでは自分で問題を解けるようにはならないが、困っている人がいたらまず魚を与え、その上で魚の釣り方を教える、という方法もあるのではないかと思った。まず魚を与えて心の余裕を作るのも必要だと思った。

●私にとっての「魚の釣り方」は絵を描くことです。その場合、誰かの絵の模倣が魚をもらうこと、と考えられます。しかし、デッサンや構図、描き方、配色などの基本的な技術や理論を学び、それを活用することで様々な絵を描くことができるようになります。もうすでにある誰かの技法をそのまま真似るのではなく、自分なりの感性やアイデアを生かした技法を生み出す過程が重要であると思います。

○今日のお話にあったように、「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」というものに似た記事（物語）を読んだことがありました。とある国に二つの先進国がダムを作ったという話です。一方は鉄や最先端の技術を駆使して作られた貯水ダム、もう一方は砂と水で作ったダムだったといいます。化学物質で作られた貯水ダムは、現地の人々の応援のもと、着々と完成していきましたが、もう一方の砂と水で作られたダムは、現地の人々を参加させ、貧しい農民たちにさらなる労働力を注ぎ込ませたそうで、評判が悪かったと聞きました。しかし、しばしたってこのダム二つは、驚くべき変化を見せたそうです。化学物質から作られたダムは、遠くの先進国からの援助がなければ直すことができなかったそうです。砂で作られたダムは、現地の人々がともに汗水流して作った甲斐もあり、自分で修復することもでき、その都市は豊かな水が得られるようになったといいます。必要なことは手をとってあげることではなく、その差し伸べた手を自ら掴むことのできるよう努力させることだと思いました。